

# 令和8年度 シラバス

( )

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	新編 文学国語		
2	国語	文学国語	2	小林 為五郎	必修	副教材名	文学国語学習ノート		
科目の目標		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。							
学習の内容と進め方		原則として全単元を扱うが、「読書の広場」「恋のうた」といった特設単元は自宅学習や長期の休みの課題と関連づけて扱う。我が国の言語文化に対する幅広い知識や教養を活用する資質・能力について、満遍なく身につける。							
学習の留意点		日常話したり書いたりしている言葉を、自分以外の他人にしっかりと伝えるという意志を持って学ぶ。							
評価の観点	知識・技能	国語の特質を理解し、適切に使っている。							
	思考・判断・表現	各領域において、他者との関わりの中で伝え合う力を高めている。							
	主体的に取り組む態度	言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。							
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。						
		B	場面に応じた適切な表現や言葉遣いについて理解し、適切な表現で伝えている。						
		C	Bの状況に達成していない段階である。						
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。						
		B	「話すこと・聞くこと」において、相手の主張を理解し、自分の意見や思いを伝えている。「書くこと」において、場面や相手に応じた分かりやすい文章で表現している。「読むこと」において、文章の意図を適切に読み取っている。						
		C	Bの状況に達成していない段階である。						
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。						
		B	伝えようという意図を持って自分の思いをまとめようとし、適切な表現を選択しようとしている。						
		C	Bの状況に達成していない段階である。						
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等	
					知	思	主		
一 学 期	4	1	【I】 1 明日をひらく  2 小説を楽しむ(一)  古典の世界1 古典の世界1	少なくとも最後まで歩かなかった	○	○	○	観察 ワークシート 小テスト 単元テスト	
		2		そとみとなかみ	○	○	○		
		1		【書く】言葉でスケッチ ①一言で心をつかもう	○	○	○		
		2		【書く】言葉でスケッチ ②魅力を言葉で表そう	○	○	○		
		1		ナイン	○	○	○		
		2		晴れた空の下で	○	○	○		
	5	1		星取り/兎の飴食ひたること	○	○	○		ワークシート ワークシート
		1		星取り/兎の飴食ひたること	○	○	○		
		2							
		0							
	6	2							観察 ワークシート 小テスト 単元テスト
		2							
		2							
		2							
7	1					ワークシート ワークシート			
	1								
	2								
	0								
小計		24							
二 学 期	8	1	恋のうた 3 詩を味わう 4 名作を読む 4 名作を読む 古典の世界2 5 社会に生きる	現代の恋／近代の恋	○	○	○	観察 ワークシート 小テスト 観察 観察 ワークシート 小テスト 単元テスト ワークシート 小テスト 観察 ワークシート 小テスト 単元テスト	
		1		小景異情	○	○	○		
		2		永訣の朝	○	○	○		
		1		コスモス	○	○	○		
		2		山月記	○	○	○		
		2		山月記	○	○	○		
	9	2		かぐや姫の昇天	○	○	○		
		2		月やあらぬ	○	○	○		
		2		神去なあなあ日常	○	○	○		
		2		靴	○	○	○		
	10	0							ワークシート 小テスト 単元テスト ワークシート
		2							
		2							
		2							
11	2					ワークシート 小テスト 観察 ワークシート 小テスト 単元テスト			
	2								
	2								
	2								
12	2					観察 ワークシート ワークシート			
	2								
	2								
	0								
小計		29							
三 学 期	1	1	読書の広場 6 表現を味わう 古典の世界3	鉄道員	○	○	○	観察 観察 ワークシート 小テスト 単元テスト 観察 ワークシート ワークシート	
		2		身内ほど厄介なものはない	○	○	○		
		2		柿	○	○	○		
		2		ぼくのお母さん	○	○	○		
	2	1		【書く】思いを言葉に ①エッセイを書こう	○	○	○		
		2		【書く】思いを言葉に ②手紙を書こう	○	○	○		
	3	1		はしたなきもの/手のわるき人の	○	○	○		
		2		行く河の流れ	○	○	○		
		2		行く河の流れ	○	○	○		
		0							
小計		17							
合計		70							

# 令和8年度 シラバス

( )

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	新公共（第一学習者）					
2	公民	公共	2	虎野 正嗣	必修・選択	副教材名	新公共ノート					
科目の目標		<p>人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するため手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、論理的主体となるなどとして活動するた</p> <p>めに必要となる情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 現実社会の諸課題の7解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>(3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決相とする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会</p>										
学習の内容と進め方		・公共の扉、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち、持続可能な社会づくりの主体となる私たちについて										
学習の留意点		・日常の報道ニュースより公共的課題に興味関心を持ち、世界のどこで起こっているのか世界的視野で考える。・課題解決										
評価の観点	知識・技能	公共に関する知識が身についているか、資料を活用できているか。										
	思考・判断・表現	公共的事象を多角的にとらえ、その影響や意義を判断し表現できるか。										
	主体的に取り組む態度	公共について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。										
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。									
		B	公共に関する知識が身についているか、資料を活用できているか。									
		C	Bの状況に達成していない。									
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。									
		B	公共的事象を多角的にとらえ、その影響や意義を判断し表現できるか。									
		C	Bの状況に達成していない。									
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。									
		B	公共について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。									
		C	Bの状況に達成していない。									
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等				
					知	思	主					
一学期	4	1	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち	オリエンテーション 1-1 社会に生きる私たち 2 個人の尊重と自主・自立 3 多様性と共通性 4 伝統文化とのかかわり 5 自立した主体をめざして				○	○	○	ノート ワーク プリント 課題 小テスト 発表	
		2										
		1										
		2										
		5										第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方
		2										
	2	第3章 公共的な空間における基本的原理										
	2	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち 主題1 法や規範の意義と役割	1-1 私たちの生活と法 2 法と基本的人権 3 自由に生きる権利と法・規範 4 平等に生きる権利と法・規範 5 安全で豊かに生きる権利と法・規範 6 法をよりよいものにするための権利	○	○	○						
	2											
	2											
	2											
	6						主題2 契約と消費者の権利・責任 主題3 司法参加の意義					
	2											
	2	第2章 政治的な主体となる私たち 主題4 政治参加と公正な世論形成	1-1 私たちの生活と法 2 法と基本的人権 3 自由に生きる権利と法・規範 4 平等に生きる権利と法・規範 5 安全で豊かに生きる権利と法・規範 6 法をよりよいものにするための権利	○	○	○						
	2											
2												
2												
7	主題5 国際社会と国家主権											
1												
1												
0	小計	27										
二学期	8	1	主題6 日本の安全保障と防衛	6-1 平和主義と安全保障 2 日本の安全保障体制の変容 3 核兵器の廃絶と国際平和					○	○	ノート ワーク プリント プリント 課題 小テスト 発表	
		1										
		1										
	9	1	主題7 国際社会の変化と日本の役割	7-1 今日の国際社会 2 人権・民族問題と地域紛争 3 国際社会における日本の役割					○	○		
		2										
		2										
	10	2	主題8 雇用と労働問題	8-1 私たちと経済 2 労働と権利 3 労働環境と課題					○	○		
		2										
		2										
	11	2	主題9 社会の変化と職業観	9-1 日本経済のこれまでとこれから 2 技術革新の進展 3 現代の企業 4 中小企業の現状と役割 5 日本の農林水産業					○	○		
		2										
		2										
	12	1	主題10 市場経済の機能と限界	10-1 市場経済と経済運営 2 市場のしくみ 3 経済発展と環境保全 4 国民所得と私たちの生活 5 経済成長と国民の福祉					○	○		
		2										
		2										
1	1	主題11 金融の働き	11-1 金融の意義と役割 2 金融のいま					○	○			
	2											
	2											
2	1	主題12 財政の役割と社会保障	12-1 財政のしくみと租税 2 日本の財政の課題 3 社会保障と国民福祉 4 これからの社会保障					○	○			
	2											
	2											
3	1	主題13 経済のグローバル化	13-1 国際分業と貿易 2 国際収支と国際経済体制 3 外国為替相場の動き 4 グローバル化する経済 5 地域的経済統合					○	○			
	2											
	0											
小計	28											
三学期	1	1	主題13 経済のグローバル化	13-6 国際社会における貧困や格差 7 地球環境問題 8 資源・エネルギー問題 9 国際社会のこれから				○	○	ノート ワーク プリント 課題 小テスト 発表		
		1										
		1										
	2	1	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	1 排出権取引を考える～地球環境問題 2 ベストミックスを考える～資源・エネルギー問題 3 ゲノム編集を考える～生命理論 4 インターネットによる投票を考える～情報 5 フェアトレードを考える～国際社会の課題・スキルアップ				○	○			
		2										
		2										
3	2											
	1											
0												
小計	15											
合計	70											

# 令和8年度 シラバス

( )

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	改訂版 新 高校の数学A (数研)	
2	数学	数学A	2	我妻 伸也	必修	副教材名	改訂版 教科書学習ノート数学A	
科目の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成すること。						
学習の内容と進め方		問題解決型学習により進める。						
学習の留意点		計算能力（処理速度）よりも数学的理解に重きを置いた学習姿勢を望む。						
評価の 観点	知識・技能	数学Aにおける基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。						
	思考・判断・表現	確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身につけることができる。						
	主体的に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。						
評価 規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	数学Aにおける基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。					
		C	Bに達していない。					
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身につけることができる。					
		C	Bに達していない。					
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。					
		C	Bに達していない。					
学期	月	予定 時数	単 元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等
					知	思	主	
一 学 期	4	0	1章 場合の数と確率	1節 場合の数	○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト
		2						
		2						
		2						
		2						
		2						
	5	2	2節 確率	○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト	
		2						
		2						
		2						
	6	2			○	○		
		2						
		2						
		2						
7	2			○	○			
	2							
	2							
	0							
小計	30							
二 学 期	8	0	2章 図形の性質	1節 平面図形	○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト
		2						
		0						
		2						
		2						
		2						
	9	2	2節 空間図形	○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト	
		2						
		0						
		2						
	10	2			○	○		
		2						
		2						
		2						
11	2			○	○			
	0							
	0							
	2							
12	2			○	○			
	2							
	2							
	0							
小計	26							
三 学 期	1	0	3章 数学と人間の活動		○	○	○	学習状況 プリント 単元テスト
		2						
		2						
		2						
	2	1						
		1						
		1						
	3	1						
		1						
		1						
小計	14							
合計	70							

<b>教科 科目 単位数</b>	理科 科学と人間生活 2	<b>受信校</b>	北海道苫前商業高等学校	<b>学科 学年(年次) 履修・実施</b>	商業科 第2学年 必修・一斉
<b>教科書 副教材</b>	「高等学校 改訂 科学と人間生活」(第一学習社)				

### 1 目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
  - (2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。
  - (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。
- (高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)より)

### 2 学習のポイント

- (1) 自然現象に興味をもち、その法則性について考えるようにしてください。
- (2) 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけてください。
- (3) Google Classroom等のツールを使って課題やレポートの提出、振り返りなどを行います。
- (4) プリントを配布する場合がありますので、各自で管理してください。

### 3 学習の評価

#### (1) 評価の観点と規準

次の3つの観点に基づいて内容や時間のまとまりごとに「A・B・C」の3段階で評価を行い、学年末に5段階評価を行い、学年末に5段階評定へと総括します。

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
科学技術の発展の人間生活への貢献、身近な事物・現象を通しての現代の人間生活と科学技術の関連性についての知識を身につけ、これからの科学技術と人間生活のあり方について理解する。	身近な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験、調査などを行って得た結果について、科学的に思考し、判断する。そこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	身近な事物・現象に関心や探究心を持ち、科学的な視点・考察力を養うとともに、科学技術に対する関心を高める態度を身につける。

#### (2) 評価方法と観点の関連(◎=特に関連の深いもの)

	評価方法\観点	①	②	③	主な対象
<b>ア</b>	学習活動の観察			◎	授業内の活動および発表
<b>イ</b>	実験操作	○	○	○	実験時の取り組み
<b>ウ</b>	レポート		◎	○	実験レポート・考察課題の内容
<b>エ</b>	テスト	◎	◎		小テスト・単元テスト
総括時の比率		1	1	1	

### 4 その他

#### <遠隔授業について>

- (1) 授業者は対面授業時を除き、基本的に配信校から授業をします。授業中の質問や疑問等については随時対応しますが、申し出にくい場合などについては、教室にいる受信担当の先生に申し出ても構いません。
- (2) 音声や画面の不具合などがある場合には授業中でも遠慮なく教えてください。
- (3) Google Classroom等を用いて課題提出や振り返り、資料配布などを行います。毎時間、端末を用意してください。

#### <学習の支援について>

授業について、不安なことや気になること、配慮して欲しいことなどがあれば、可能な範囲で個別対応します。直接相談しにくい場合は、Classroomやワークシートに書いてもらっても構いません。

5 年間授業計画 (計 70 時間)

月	○単元 ●主な教材	配 当 (時)	【学習領域】 ・主な学習内容	目標・ねらい	観点ごとの 主な評価の対象 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
4 / 5 / 6	オリエンテーション	1		・遠隔授業の雰囲気をつくり、これからの学習の指針を立てる。	
	第I章 物質の科学	17	第1節 材料とその利用	(1) 身のまわりにあるプラスチックの特徴と原料について、理解する。 (2) プラスチックはおもに炭素原子と水素原子からなる有機物であることを理解し、燃焼時の反応などを考察する。 (3) プラスチックの性質（比重など）と用途について、科学的に思考する。 (4) 熱可塑性樹脂と熱硬化性樹脂について、熱に対する性質の違いを理解する。 (5) 高吸水性樹脂、導電性樹脂、光透過性樹脂、生分解性プラスチックなどの新しいプラスチックの性質や用途について理解する。 (6) 金属の利用の歴史から、金属結合とそれにもとづく金属の性質について理解する。 (7) 鉄について、性質や製錬方法、利用法などについて理解する。 (8) アルミニウムと銅について、その性質や製錬方法について、科学的に理解する。 (9) 資源の再利用方法に関心を持ち、どのように再利用されているかを理解する。 (10) 金属とガラスの再利用の必要性について科学的に理解する。	①単元テスト 小テスト ②ワークシート 考察課題 ③学習活動の取組
7 / 8 / 9	第II章 生命の科学	17	第2節 微生物とその利用	(1) 身近に存在する微生物の存在を認識し、微生物と人間生活とのかかわりについて論理的に思考する。 (2) 微生物の発見、自然発生説の否定、病原菌の発見、ウイルスの発見の研究について、科学的に理解する。 (3) 炭素の循環や窒素の循環を通して微生物による自然浄化を理解する。 (4) 自然界にみられる微生物について、植物体内に進入して生活する微生物のはたらきを理解する。 (5) アミノ酸発酵やバイオリクターの学習を通して、これからの発酵技術と人間生活とのかかわりについて理解する。 (6) 身近にみられる発酵食品が微生物のはたらきによってできることを論理的に思考する。 (7) 抗生物質の発見やワクチンの開発の研究を学習し、微生物によってつくられた医薬品が人間生活にどのように貢献してきたかを科学的に理解する。	①単元テスト 小テスト ②ワークシート 考察課題 ③学習活動の取組

				(8)環境浄化、バイオテクノロジー、エネルギー資源の生産における微生物の利用の学習を通して、これからの微生物の有効活用と人間生活のあり方について理解する。	
10 / 11 / 12	第Ⅲ章 熱や光の科学	18	第1節 熱の性質とその利用	<p>(1) セルシウス温度や絶対温度について理解し、熱運動についての知識を身につける。</p> <p>(2) 熱平衡の現象と、物体の熱容量と比熱について科学的に理解する。</p> <p>(3) 熱伝導、対流、熱放射などのしくみについて理解する。また、水の状態変化と潜熱の概念について理解する。</p> <p>(4) 仕事とエネルギーの関係、ジュール熱と電力の関係について、物理式を用いながら理解する。</p> <p>(5) さまざまなエネルギーの形態やエネルギー保存の法則について理解する。</p> <p>(6) 可逆変化と不可逆変化について理解し、熱機関、永久機関の学習を通して、熱はすべて仕事に変えられないことを科学的に理解する。</p> <p>(7) ハイブリッドカーの開発などの省エネルギーの試みや、太陽光や風力、地熱などの代替エネルギーの開発について理解する。</p>	<p>①単元テスト 小テスト</p> <p>②ワークシート 考察課題</p> <p>③学習活動の取組</p>
1 / 2 / 3	第Ⅳ章 地球や宇宙の科学	17	第1節 自然景観と自然災害	<p>(1)日本列島の特徴とその成因、日本列島付近のプレートの動きについて科学的に理解する。</p> <p>(2)火山の噴火によって噴き出す噴出物、火山の噴火がおこる原因、火山の形とマグマの関連性、および日本の火山活動について理解する。</p> <p>(3) 火山の災害と防災について、火山の噴火によって直接およびおぼされる被害や二次的な被害、火山噴火の予知と防災について、科学的・論理的に理解する。</p> <p>(4)地震の発生のしくみや、日本列島の地震活動とプレートとの関連性について、科学的に理解する。</p> <p>(5) 地震災害と防災について、地震が直接およびおぼす被害や地震による二次的な被害、地震の予知と防災について、科学的に理解する。</p> <p>(6) 身近にある河川や湖沼、海に興味をもち、河川のはたらきや海水のはたらきによって形成された地形について、その形成のようすを科学的に理解する。</p> <p>(7) 豪雪、台風、集中豪雨、土砂災害など、日本列島でみられる気象災害の特徴とそれがおこるしくみについて、科学的に理解する。</p>	<p>①単元テスト 小テスト</p> <p>②ワークシート 考察課題</p> <p>③学習活動の取組</p>

# 令和8年度 シラバス

( )

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書		
2	保健体育	体育	2	吉田 和輝	必修	副教材名		
科目の目標		運動の合理的、計画的な実践を通して、楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。生涯にわたって運動を継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、協力する、責任を果たす、参画する、1人1人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。						
学習の内容と進め方		各学習内容について、安全と個々の技術や体力に配慮しながら、課題解決のため主体的に取り組む事ができるよう進めて行きます。						
学習の留意点		安全に配慮し、個々の力を尊重しあい、協力しながら学習に取り組みましょう。						
評価の観点	知識・技能	体の動かし方や用具の操作方法などの具体的な知識と運動の実践を通して、各領域の特性や楽しさを味わうとともに、技能や攻防ができていくか。						
	思考・判断・表現	自他の課題を発見し、合理的で計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、考えたことを他者に伝えることができるか。						
	主体的に取り組む態度	公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、違いを尊重しようとする意欲を持ち、健康、安全を確保できているか。						
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	基本的な体の動かし方や用具の操作方法を理解し、各領域の基本的な技能を身に付けている。					
		C	Bの状況に達成していない段階にある。					
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	各領域において課題を見つけ、解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間が考えたことを他者に伝えている。					
		C	Bの状況に達成していない段階にある。					
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	他と協調しながら安全に配慮し主体的に取り組もうとしている。					
		C	Bの状況に達成していない段階にある。					
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等
					知	思	主	
一 学 期	4	0	オリエンテーション（1時間） 体づくり運動・集団行動（4時間）	体ほぐし、体力を高める運動	○	○	○	取り組み スキルテスト 記録、レポート
		1						
		2						
	5	0	スポーツテスト（4時間） 器械運動（8時間）	マット運動（回転系・巧技系） の基本的な技、条件を変えた技	○	○	○	
		2						
		2						
		2						
		2						
	6	0	パークゴルフ（6時間）	ルール、マナー、道具の使い方 地域との連携	○	○	○	
		2						
		2						
		2						
	7	2	体育理論（2時間） 体育理論（2時間）		○	○	○	
		0						
	小計		25					
二 学 期	8	0	選択Ⅰ（バスケ・バレー）（9時間）	ルール、基本動作、ゲーム	○	○	○	
		2						
		0						
	9	2	選択Ⅱ（バドミントン・卓球）（10時間）	ルール、基本動作、ゲーム	○	○	○	
		2						
		1						
		2						
		2						
	10	0	体育理論（2時間）		○	○	○	
		2						
		2						
		2						
	11	2			○	○	○	
		0						
	12	2			○	○	○	
0								
小計		25						
三 学 期	1	0	スキー（14時間）	スキーの基本動作（プルークボーゲン、 シュテムターン、パラレルターン）	○	○	○	
		2						
		6						
	2	0	体づくり運動（4時間）	体ほぐし、体力を高める運動	○	○	○	
		0						
		0						
	3	0			○	○	○	
		2						
	小計		20					
	合計		70					

# 令和8年度 シラバス

( )

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	現代高等保健体育	
2	保健体育	保健	1	吉田 和輝	必修	副教材名	現代高等保健体育ノート	
科目の目標		社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的で計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
学習の内容と進め方		ア. 現代社会と健康 イ. 安全な社会生活 について、自分の事と捉えられるよう、日常生活の中から身近な課題や例を挙げながら学習を進めていきます。						
学習の留意点		自分自身と密接に関わることであり意識して、積極的に学習を進めることにより、一層理解が深まります。						
評価の観点	知識・技能	学習内容について理解し、健康で安全な社会生活を送るための基本的な知識を身に付けているか。						
	思考・判断・表現	学習内容について、日常生活から課題を見だし、他者との関わりの中で課題解決へ向け、思考し判断し伝え合うことができているか。						
	主体的に取り組む態度	学習内容について、自身の健康課題の解決に向け、主体的に取り組もうとしているか。						
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	健康で安全な社会生活を送るための基本的な知識を身に付けている。					
		C	Bの状況に達成していない段階にある。					
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	日常生活から課題を見だし、課題解決へ向け、他者との関わりの中で伝え合うことができている。					
		C	Bの状況に達成していない段階にある。					
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	健康で安全な社会生活を送るために、自身にとって適切な選択ができている。					
		C	Bの状況に達成していない段階にある。					
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等
一 学 期	4	1	オリエンテーション 安全な社会生活	ライフステージと健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択	○	○	○	課題、提出物 単元テスト レポート ノート 発表
		1						
		1						
		0						
	5	1	妊娠・出産と健康 避妊法と人工妊娠中絶	○	○	○		
		1						
		1						
		1						
	6	1	単元テスト	○	○	○		
		1						
		0						
		1						
	7	1	結婚生活と健康 中高年期と健康 働くことと健康 働くことと健康	○	○	○		
		1						
1								
0								
小計		14						
二 学 期	8	1		労働災害と健康	○	○	○	
		1						
		0						
		1						
	9	1	健康的な職業生活 単元テスト	○	○	○		
		1						
		1						
		1						
	10	0	健康を支える環境づくり 大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康	○	○	○		
		1						
		1						
		1						
	11	1	環境と健康にかかわる対策 ゴミの処理と上下水道の整備 単元テスト	○	○	○		
		1						
0								
1								
12	1	食品の安全性	○	○	○			
	1							
	1							
	0							
小計		14						
三 学 期	1	1		食品衛生にかかわる活動 保健サービスとその活用	○	○	○	
		1						
		0						
		1						
	2	1	医療サービスとその活用 医薬品の制度とその活用 さまざまな保健活動や社会的対策 単元テスト	○	○	○		
		1						
		0						
		0						
	3	1		○	○	○		
		1						
小計		7						
合計		35						

# 令和8年度 シラバス

( )

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	Amity English Communication I・II		
2	外国語	英語コミュニケーションII	3	松下 広希	必修	副教材名	グリーン・ブレップ イングリッシュ[第3版]		
科目の目標		英文の理解、音読、聴解、作文、対話等をバランスよく学び、習得させる。							
学習の内容と進め方		上記の目標を達成するために、教科書、単語集の他、様々な教材を利用する。							
学習の留意点		生徒個々人の能力、得意分野を配慮し興味関心を持たせ、卒業後の自学自習につなげられるように実施する。							
評価の観点	知識・技能	基本的な英単語や文法を理解し、運用できること。							
	思考・判断・表現	場面に応じて、自分の表現したいことを、適切な英語表現で表すことができること。							
	主体的に取り組む態度	苦手な分野であっても、他と協力し合いながら積極的に探究、発表ができること。							
評価規準	知識・技能	A	英語の理解・運用が優れており、ALTとも自立してコミュニケーションを図れること。						
		B	英語の基礎的な知識を用いて、ある程度自己表現をし、ALTとも日本語を混ぜながらコミュニケーションを図れること。						
		C	今後も著しい努力を要すること。						
	思考・判断・表現	A	ALTとの対話や、その場に応じて自分の主張を英語で展開できること。						
		B	場面に応じて、適切な単語を選択し、ある程度自己表現ができること。						
		C	今後も著しい努力を要すること。						
	主体的に取り組む態度	A	教員の指示なしに、英語それ自身の学習のみならず、背景知識の習得に積極的であること。						
		B	自立した思考・判断、および学習がある程度できること。						
		C	今後も著しい努力を要すること。						
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等	
					知	思	主		
一学期	4	2	Lesson 3	ダンスの力	○	○	○	課題	
		2	【ブ】 ユニット1~2 (P14~25)	月名、アルファベット	○		○		
		2							
	5	3	2	Lesson 4	世界の絶滅危惧種	○	○	○	課題
			1	【ブ】 ユニット3~4 (P26~37)	代名詞、be動詞	○		○	
			3	【バ】 Tell me about your trip		○	○	○	
		6	3						
			3						
	7	3	2	Lesson 5	チョコレートの歴史	○	○	○	課題
			3	【ブ】 ユニット5~6 (P38~49)	過去形、疑問文・否定文	○		○	
			3						
		7	3						
			0						
	小計	39							
	二学期	8	2		全商英検対策	○		○	
2									
3									
9		3	2	Lesson 6	私達の学校	○	○	○	課題
			3	【ブ】 ユニット7~8 (P50~61)	疑問文・進行形	○		○	
			2	【バ】 My emotional Experience		○	○	○	
		10	3						
			2						
11		3	2	Lesson 7	セレンディビティ	○	○	○	課題
			3	【ブ】 ユニット9 (P62~65)	canとmust	○		○	
			3						
		12	2						
			2						
12		2	2	Lesson 8	サプール	○	○	○	課題
			2	【ブ】 ユニット10 (P66~73)	be going toとwill	○		○	
	2		【バ】 Let's keep on speaking for minutes		○	○	○	発表	
	12	2							
		3							
小計	42								
三学期	1	2	【ブ】 ユニット11 (P74~77)	現在完了	○	○	○	課題	
		2	【バ】 My speech		○	○	○		発表
		2	Lesson 10	安全な水	○		○		課題
	2	2	【ブ】 ユニット12 (P78~84)	不定詞	○		○		
		3							
		3							
	3	3	まとめ等			○	○	○	課題
		2							
		3							
		0							
小計	24								
合計	105								

# 令和8年度 シラバス

( )

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	Creative Living 『家庭基礎』で生活をつくろう			
2	家庭	家庭基礎	2	吉田 和輝	必修	副教材名				
科目の目標		生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解と技能を身に付ける。								
学習の内容と進め方		上記の目標を達成するために、教科書、google classroomを利用する。								
学習の留意点										
評価の観点	知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。								
	思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。								
	主体的に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。								
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。							
		B	健康で安全な社会生活を送るための基本的な知識を身につけている。							
		C	Bの状況に達成していない段階にある。							
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。							
		B	日常生活から課題を見だし、課題解決へ向け、他者との関わりの中で伝え合うことができている。							
		C	Bの状況に達成していない段階にある。							
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。							
		B	健康で安全な社会生活を送るために、自身にとって適切な選択ができている。							
		C	Bの状況に達成していない段階にある。							
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等		
					知	思	主			
一 学 期	4	1	第1章 生活のマネジメント	1 生涯を発達し続ける	○	○	○	課題 発表・小テスト google		
		2		2 意思決定を重ねてつくる人生 *テンショングラフの作成	○	○	○			
		2		3 どんな生き方をする？	○	○	○			
	5	0	第2章 青年期の課題と自立	1 子どもから大人へ	○	○	○	課題 発表 google		
		2		2 自立の達成を目指そう	○	○	○			
		2								
	6	2	第9章 食生活のマネジメント	1 体と心を満たす食事	○	○	○	課題 発表 google		
		2		2 イエローカードかも？	○	○	○			
		2		3~8 栄養素について	○	○	○			
		2		9 豊かな食卓に	○	○	○			
		2		10 食品のプロフィール	○	○	○			
	7	2		1 1 調理の基礎	○	○	○			
		2		1 2 食生活の文化と知恵	○	○	○			
		4		1 3 調理実習（和洋中、郷土料理）	○	○	○			
0		1 3 調理実習（和洋中、郷土料理）		○	○	○				
小計		27								
二 学 期	8	0	第10章 衣生活のマネジメント	*洋食は英語と連携し、オールイングリッシュ				課題 発表 google google google 課題 発表・google google 課題 発表 google 課題 発表 google 課題 発表 google		
		2		1 人と被服のかかわり	○	○	○			
		2		2 健康と安全を守る被服	○	○	○			
	2	3 被服実習（革コースター作成）		○	○	○				
	2	3 被服実習（革コースター作成）		○	○	○				
	10	2		第6章 共生社会をつくる	1 生活課題の乗り越え方	○	○		○	
		0		2 とともに生き、社会をつくる	○	○	○			
		0		第3章 家族・家庭生活のマネジメント	1 家族って何だろう	○	○		○	
	11	2		第4章 子どもの生活と子育てのマネジメント	3 法律から見る家族・家庭	○	○		○	
		0			4 ダイバーシティの実現を目指す	○	○		○	
		2			1 子どもの世界を知る 2 命の誕生	○	○		○	
		2			3 子どものいる暮らし	○	○		○	
		2			4 子どもの仕事は「遊び」	○	○		○	
	12	2		第5章 高齢期の生活のマネジメント	5 親になるということ 6 社会で子育て	○	○		○	
2		1 人生100年時代の高齢期	○		○	○				
1		2 年をとると変わること	○		○	○				
0	3 これからの高齢社会	○	○	○						
小計		25								
三 学 期	1	2	第8章 経済生活のマネジメント	1 生活を営むためのお金 2 経済のしくみを知ろう	○	○	○	課題 発表 google 課題 発表 発表		
		2		3 お金と上手につきあう 4 18歳で変わる消費生活	○	○	○			
		2		5 進むキャッシュレス社会 6 お金を借りるということ	○	○	○			
	2	2		第11章 住生活のマネジメント	7 消費者トラブル 8 ライフプラン計画	○	○		○	
		3			ホームプロジェクト～生涯を見通す～	○	○		○	
		2			1 住まいを知ろう	○	○		○	
	2	2 心地よく暮らすために			○	○	○			
	0	3 住環境を見つめてみよう			○	○	○			
	3	2			第7章 持続可能な社会をつくる	1 地域が危ない	○		○	○
		1				2 ライフスタイル再考	○		○	○
0		2 ライフスタイル再考	○			○	○			
0		2 ライフスタイル再考	○			○	○			
小計		18								
合計		70								

# 令和8年度 シラバス

( )

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	マーケティング (実教出版)	
2	商業	マーケティング	3	松野郷 圭介	必修	副教材名		
科目の目標		(1) 実務に即して体系的・系統的に理解し、関連する技術。 (2) 課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力。 (3) 自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度。						
学習の内容と進め方		・マーケティングに関する基礎的、基本的な内容を教科書やワークシートを用いて学習をし、理解を深める。 ・探究学習や発表を行い、ビジネスに携わる者としての素養を身に付ける。						
学習の留意点		・CMやもの、経済に関心を持ち、その情報を収集する習慣をつける。 ・販売会等を通して、マーケティングの理解を深める。						
評価の観点	知識・技能	授業内テスト (学期に1回実施)						
	思考・判断・表現	SWOT分析や官能テストなどマーケティング実習の取り組み						
	主体的に取り組む態度	ワークシート・ノート						
評価規準	知識・技能	A	授業内考査の到達度が全体の80%以上					
		B	授業内考査の到達度が全体の31~79%					
		C	授業内考査の到達度が全体の30%以下					
	思考・判断・表現	A	実習評価の到達度が全体の80%以上					
		B	実習評価の到達度が全体の31~79%					
		C	実習評価の到達度が全体の30%以下					
	主体的に取り組む態度	A	ノート・ワークシート評価の到達度が全体の80%以上					
		B	ノート・ワークシート評価の到達度が全体の31~79%					
		C	ノート・ワークシート評価の到達度が全体の30%以下					
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等
					知	思	主	
一 学期	4	39	第1章 マーケティングの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティングの歴史と発展</li> <li>・現代の市場とマーケティング</li> <li>・マーケティングの環境の分析</li> <li>・マーケティング・マネジメント (実習：SWOT分析)</li> </ul>			○	ワークシート ○ ワークシート ○ ワークシート ○ ワークシート 課題ワークシート
	5		第2章 消費者行動の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者の心理と行動の関係</li> <li>・購買意思決定過程</li> <li>・消費者行動に影響を与える要因</li> </ul>			○	ワークシート ○ ワークシート ○ ワークシート ○ ワークシート ○ ワークシート
	6		第3章 市場調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場調査の概要</li> <li>・市場調査の手順</li> <li>・仮説検証の手順、方法 (実習：調査票の作成)</li> </ul>			○	課題ワークシート
	7		第4章 STP	(1学期授業内テスト：実施・解説) (1学期授業内テスト：実施・解説)	○			考査 考査
	小計		39				○	
二 学期	8	42	第5章 製品政策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品政策の概要</li> <li>・新製品開発</li> <li>・販売計画と生産計画</li> </ul>			○	ワークシート ○ ワークシート ○ ワークシート ○ ワークシート ○ ワークシート
	9		第6章 価格政策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品政策の動向</li> <li>・価格政策の概要</li> <li>・価格政策の概要</li> <li>・価格の設定方法</li> <li>・価格政策の動向</li> </ul>			○	ワークシート ○ ワークシート ○ ワークシート ○ ワークシート
	10		第8章 プロモーション政策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャネルの選択と管理</li> <li>・チャネル政策の動向</li> <li>・プロモーション政策の概要</li> <li>・プロモーションの種類</li> </ul>			○	ワークシート ○ ワークシート ○ ワークシート ○ ワークシート
	11		第9章 マーケティングのひろがり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまなマーケティング戦略</li> <li>・サービス・マーケティング</li> <li>・小売マーケティング</li> </ul>			○	ワークシート ○ ワークシート ○ ワークシート ○ ワークシート
	12			(2学期授業内テスト：実施・解説)	○			考査
	小計		42				○	
三 学期	1	24	学習内容のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光、グローバル、ソーシャル</li> <li>・マーケティングコンセプト～環境分析</li> <li>・STP～4P政策</li> </ul>	○		○	ワークシート ○ ワークシート ○ ワークシート
	2		(3学期授業内テスト：実施・解説) (実習：商品の官能評価) (実習：商品の企画) (実習：商品の広告)	○		○	考査 課題ワークシート "	
	3		(実習：パッケージデザイン) "	○		○	"	
	3		"	○		○	"	
小計	24				○			
合計	105							

# 令和8年度 シラバス

( )

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	観光ビジネス	
1	商業	観光ビジネス	2	高橋 健	必修	副教材名	観光ビジネス (準拠問題集)	
科目の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。						
学習の内容と進め方		(1) 観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
学習の留意点		今日の日本の観光ビジネスは、「インバウンドが非常に強い一方で、混雑・地域偏在・人手不足への対応が経営課題になっている局面」であり、その解決に向けて世の中に目を向けることが大切である。						
評価の観点	知識・技能	企業における事例など実際の観光ビジネスと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ観光ビジネスに関する知識と技術を身に付けている。						
	思考・判断・表現	唯一絶対の答えがないことのできる多岐にわたる観光ビジネスにおいて、観光ビジネスをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、観光ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、観光ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。						
	主体的に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら観光ビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、観光資源の効果的な活用、マーケティング、観光の振興策の考案と実施などに責任をもって取り組んでいる。						
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況					
		B	ビジネスの様々な場面で役に立つ観光ビジネスに関する知識と技術を身に付けている。					
		C	Bの状況に達成していない段階					
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況					
		B	顧客についての理解、市場の動向、観光ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。					
		C	Bの状況に達成していない段階					
主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況						
	B	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら観光ビジネスについて学んでいる。						
	C	Bの状況に達成していない段階						
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等
					知	思	主	
一 学 期	4	1	オリエンテーション	観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスの概要 観光ビジネスの意義と課題について	○			課題
		2	第1章 観光ビジネスの概要					
		2	1. 観光ビジネスの担い手と特徴					
		1	2. 観光ビジネスの動向					
		1	3. 日本の観光政策					
	5	1	4. 観光ビジネスと地域	観光ビジネスの主な産業の意義と課題について	○		○	発表
		1	第2章 観光ビジネスの主な産業					
		2	1. 旅行業					
		2	2. 宿泊業					
	6	1	3. 旅客輸送業		○		○	単元テスト
		2	4. 娯楽業					
		2	5. その他の産業					
		1	5. その他の産業					
		0	5. その他の産業					
小計	22							
二 学 期	8	1	第3章 観光ビジネスとマーケティング	観光ビジネスにおけるマーケティングに関する課題を発見する	○		○	
		1	1. 観光ビジネスの顧客					
		1	2. 観光ビジネスにおけるマーケティングの意義					
	9	2	3. 観光ビジネスのマーケティング戦略	観光資源の活用および保護や保全に関する課題を発見する	○		○	
		2	第4章 観光資源の発見と活用					
		2	2. 観光資源の保護と保全					
		2	第5章 地方自治体の観光政策					
	10	2	1. 地方自治体の観光政策の概要	地方自治体の観光政策について	○		○	
		2	2. 地方自治体の観光政策の実施内容					
		2						
		2						
		2						
	11	2			○		○	
		2						
2								
2								
2								
12	2			○		○		
	2							
	0							
	0							
小計	30							
三 学 期	1	1	第6章 観光ビジネスと観光まちづくり	観光まちづくりによる地域の活性化に関する課題を発見する	○		○	
		1	1. 観光まちづくりとは何か					
		1	2. 観光まちづくりと地域の活性化のプロセス					
	2	1	○オロロンデザインⅡに向けた留萌管内の学習	留萌管内の観光ビジネスを学ぶ	○		○	
		1	1. 管内の観光資源を探そう					
		1	2. 苫前町の観光課題					
		0						
	3	0			○		○	
		0						
		0						
小計	8							
合計	60							

# 令和8年度 シラバス

( )

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	新財務会計Ⅰ・新簿記			
2	商業	財務会計	3	高橋・成田	選択	副教材名	_____			
科目の目標		・企業における取引を記録、計算、整理する知識と技術を身につけ、簿記の基本的な仕組みについて理解する。 ・ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を身につける。								
学習の内容と進め方		・簿記の意味、目的、歴史や資産・負債・資本と貸借対照表、収益・費用と損益計算書、簿記一巡の手続きについて取り扱い、簿記に関する基礎的な知識と技術を身につける。 ・現金預金、商品売買、債権債務、固定資産、個人企業の資本と税金、営業費、本支店会計について取り扱い、取引の記録に関する基礎的な知識と技術を身につける。 ・決算整理、財務諸表について取り扱い、決算に関する基礎的な知識と技術を身につける。・帳簿、伝票、仕訳帳の分別について取り扱い、帳簿と帳簿組織に関する基礎的な知識と技術を身につける。								
学習の留意点		・1年次に学習した内容が頭に入っていない場合は理解に苦しみやすいため、しっかりと復習する必要があります。 ・授業で取り上げる例題等をもとに、授業以外の時間を使って繰り返し復習することが大切です。 ・授業には積極的に参加しましょう。また、分からない部分に関して級友と教え合うと確実に理解できます。								
評価の観点	知識・技能	会計と簿記に関する基礎的、基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理している。								
	思考・判断・表現	様々な処理方法や記帳法について自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。								
	主体的に取り組む態度	株式会社における簿記と会計に関心を持ち、知識と技術の習得に意欲的に取り組む。								
評価規準	知識・技術	A	Bを上回る状況							
		B	会計と簿記に関する基礎的、基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理している。							
		C	Bの状況に達成していない段階							
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況							
		B	様々な処理方法や記帳法について自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。							
		C	Bの状況に達成していない段階							
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況							
		B	株式会社における簿記と会計に関心を持ち、知識と技術の習得に意欲的に取り組む。							
		C	Bの状況に達成していない段階							
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等		
					知	思	主			
一学期	4	2	オリエンテーション	1年間の学習内容の確認						
		3	帳簿と伝票	3伝票について、記帳方法や集計について学	○			確認テスト 課題		
		3					○		プリント	
	5	2	特殊な取引の記帳							
		3				○		確認テスト 課題		
		5					○		プリント	
		4	決算							
	3				○		確認テスト 課題			
	6	2								
		1								
		1							○	プリント
		0								
		2								
		3								
7	1									
	1									
	1									
	1									
小計		37								
二学期	8	1	決算			○			確認テスト	
		4	本支店会計	損益計算書、貸借対照表の作成				○	自発的発問や回答	
	9	2	企業と会計					○	ワークシート	
		1	企業会計制度と会計法規	企業会計原則、企業会計制度について				○	ワークシート	
		1	貸借対照表のあらまし	貸借対照表の意味と役割				○	ワークシート	
		2	貸借対照表のあらまし	貸借対照表の意味と役割				○	ワークシート	
		3	資産の意味、分類、評価	貨幣性資産、費用性資産、営業循環基準や1年基準による分類				○	プリント	
	10	0	当座資産	現金預金など当座資産の評価方法				○	ワークシート	
		4	棚卸資産、その他の流動資産	商品評価損や棚卸減耗損などの評価方法			○		確認テスト	
		4	無形固定資産	取得原価の計算、期末評価			○		確認テスト	
		3	投資その他の資産	意味や分類、期末評価について			○		確認テスト	
	11	2								
		3								
		2								
1										
3										
2										
12	1									
	3									
	2									
	0									
小計		38								
三学期	1	0	負債の意味と分類	負債の意味や分類について					確認テスト	
		10	流動負債	未払金と未払費用などの差異			○		課題	
		2	固定負債	退職給付引当金などの処理方法				○	プリント	
	2	4	資本金、資本剰余金、利益剰余金	資本の意味や分類、計算方法			○		確認テスト	
		2	自己株式、新株予約権	自己株式などの意味や、計算方法				○	○	課題/プリント
		3	貸借対照表の作成	作成方法について				○	○	課題/プリント
		1	損益計算書の作成	作成方法について				○	○	課題/プリント
	3	1								
		3								
		4								
0										
小計		30								
合計		105								

# 令和8年度 シラバス

( )

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	プログラミング (マクロ言語) 実教出版		
2	商業	プログラミング(2年)	3	松野郷 圭介	選択	副教材名	情報処理検定 (プログラミング部門) 2級問題集		
科目の目標		実習を通して実践的・体験的な学習活動を行う、企業活動に有用なプログラムと情報システム開発に必要な資質・能力を育成することを目指す。							
学習の内容と進め方		教科書例題をもとに実習課題に取り組みながら、プログラミングの手順とアルゴリズムを学習する。							
学習の留意点		3章プログラムと情報システムの開発に関しては実習を通して実際に体験しながら学習する。							
評価の観点	知識・技能	授業内テスト (学期に1回実施)							
	思考・判断・表現	実習課題の作成と実行・デバッグ							
	主体的に取り組む態度	実習課題の設計 (外部設計・内部設計・プログラム設計)							
評価規準	知識・技能	A	授業内考査の到達度が全体の80%以上						
		B	授業内考査の到達度が全体の31~79%						
		C	授業内考査の到達度が全体の30%以下						
	思考・判断・表現	A	実習評価の到達度が全体の80%以上						
		B	実習評価の到達度が全体の31~79%						
		C	実習評価の到達度が全体の30%以下						
	主体的に取り組む態度	A	設計評価の到達度が全体の80%以上						
		B	設計評価の到達度が全体の31~79%						
		C	設計評価の到達度が全体の30%以下						
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等	
一学期	4	39	オリエンテーション 1章 情報システムとプログラミング	授業の進め方・評価の基準 3 プログラミングの手順 教科書例題を用いて「入力」「実行」「デバッグ」の手順を反復し学習 ・課題1 (順次処理)  ・課題2 (繰返処理For~Next)  ・課題3 (繰返処理Do~While)  ・課題4 (条件判定If~Then~) ・課題5 (条件判定If~Then~else) ・課題6 フォームを使う順次処理 ・課題7 フォームを使った複利計算 ・課題8 Bリーグ観客動員数の分析 (1学期単元テスト) (1学期単元テスト)	知	思	主		
	5		2章 アルゴリズム  (実習と並行して関連知識の解説) 5章 ハードウェアとソフトウェア 1 データの表現 2 ハードウェアの機能と動作 3 ソフトウェアの体系と役割 4 情報セキュリティ						
	6								
	7								
	小計		39						
二学期	8	42		・課題9 最大値と最小値  ・課題10 リサイクルショップの買取分析  ・課題11 苫前町風力発電の分析 (配列) ・課題11 苫前町風力発電の分析 (配列)  ・課題12 道の駅来客数 (線形探索)  ・課題14 チカホ通行量分析 (線形探索)  ・課題15 苫商開発商品集計 (グループツール) ・課題16 管内公式グッズ集計 (二次元配列)  ・課題17 顧客カルテ (二分探索) (2学期単元テスト)	知	思	主		
	9								
	10								
	11								
	12								
小計	42								
三学期	1	24	4章 情報システムの開発演習	・課題18 都道府県魅力度 (順位付け・バブルソート) (セレクションソート) (インサージョンソート) (3学期単元テスト) 3 PHPの活用 4 データベースとの連携  5 携帯型情報通信ソフトウェアの活用	知	思	主		
	2								
	3								
小計	24								
合計		105							

# 令和8年度 シラバス

( )

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	_____						
2	商業	オロロンデザインI	2	高橋・藤田	必修	副教材名	_____						
科目の目標		地域産業を学び、地域の資源で商品（有形・無形）化につながるものを探索し、地域産業のPR動画を作成する。											
学習の内容と進め方		とままえ基礎で学んだ地域の風土・歴史と、苫前町の第1次産業（漁業・農業・酪農）について地域の人材・資源を活用し、見学や体験を通して地域産業への理解を深める。学習した成果は、地域産業のPR動画として作成し発表する。											
学習の留意点		考查の実施はありません。普段の授業での取り組みが評価につながります。提出物等は自分なりに丁寧に記入できるよう取り組みましょう。											
評価の観点	知識・技能	苫前町の第1次産業について、調査・研究した事柄を協働してまとめ、生徒相互に発表し、苫前町の産業を知り、理解を深めようとしている。											
	思考・判断・表現	苫前町の第1次産業の成り立ちについて、切り開いた先人の思いを感じ取り、実際に取り組むことによってその思いを表現しようとしている。											
	主体的に取り組む態度	生活の基盤となる苫前町に関心を寄せ、苫前町を知ろうとする意欲をもって、PRのための見学や体験に積極的に参加し、苫前町を知る喜びを実感しようとしている。											
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。										
		B	学習の目的や意義を理解し、調査・研究のための基本的な技能を活用している。										
		C	Bの状況に達成していない段階である。										
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。										
		B	調査・研究の過程から、各産業の起源や先人の思いを理解し、表現しようとしている。										
		C	Bの状況に達成していない段階である。										
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。										
		B	苫前町に対する関心を持ち、その調査・研究に積極的に関わろうという意識をもって、校内外の人とコミュニケーションを図っている。										
		C	Bの状況に達成していない段階である。										
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等					
						知	思		主				
一 学 期	4	1	事前指導	とままえ基礎の振り返り						○			日誌 レポート 姿勢・態度
		2		地域産業の調べ学習						○	○		
		2											
		2											
	5	2	見学・体験 ①農業 ②漁業 ③酪農業	グループ編成						○	○	○	
		2											
		2											
		2											
		2											
		2											
	6	1	動画制作	地域産業をPRする動画の制作						○	○	○	
		1											
		1											
		2											
7	2												
	2												
	2												
	0												
小計	28												
二 学 期	8	0	見学・体験 ①農業 ②漁業 ③酪農業 ③酪農業						○	○	○	日誌 レポート 姿勢・態度 姿勢・態度	
		2											
		2											
		2											
		2											
		2											
	9	2	動画編集	発表会に向け、動画を編集し完成させる							○	○	動画
		2											
		2											
		2											
	10	2	校内発表							○	○	○	
		2											
		2											
		2											
11	2	まとめ							○	○	○	レポート	
	2												
	2												
	0												
小計	32												
三 学 期	1	1	商品開発に向けた調べ学習	地域の課題を解決できる商品の開発						○	○	○	企画書 姿勢・態度
		1											
	2	1											
		1											
		1											
		1											
		1											
		1											
	3	1											
		0											
小計	10												
合計	70												